

県産材や伝統工芸を身近に感じながら市民の活動が見える空間構成



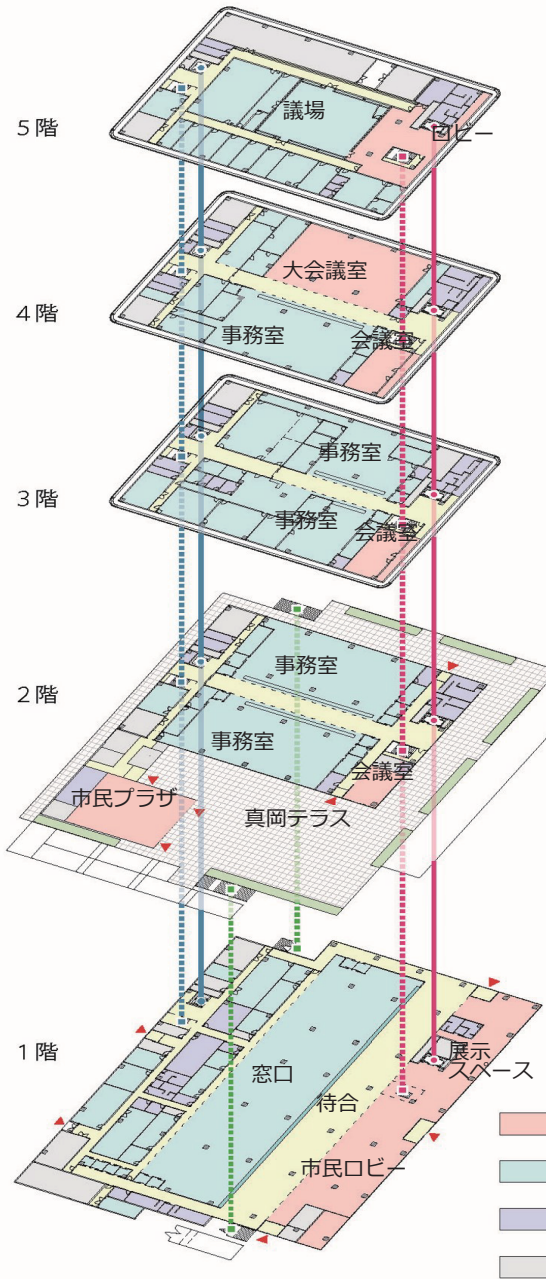
■ 5階：県産木材を内装と家具に使用した議場



■ 4階：災害対策スペースにも活用できる大会議室



■ 2階：もおかテラスと一体的に活用できる開放的な市民プラザ



ロビーや議場には県産木材を活用した天井ルーバーや家具、真岡木綿を活用したサインで構成することにより地域性を創出。

基準階は日射負荷の少ない東西軸配置のコンパクトな中廊下形式の平面計画。

市民のためのスペースとして、東側外部に面した位置に打合せコーナーや展示コーナーなどの市民協働スペースを設け、市民は休日でも利用可能な計画。

大きな平面の1階にコンパクトな平面の基準階を重ねることで、開放的な真岡テラスを確保。

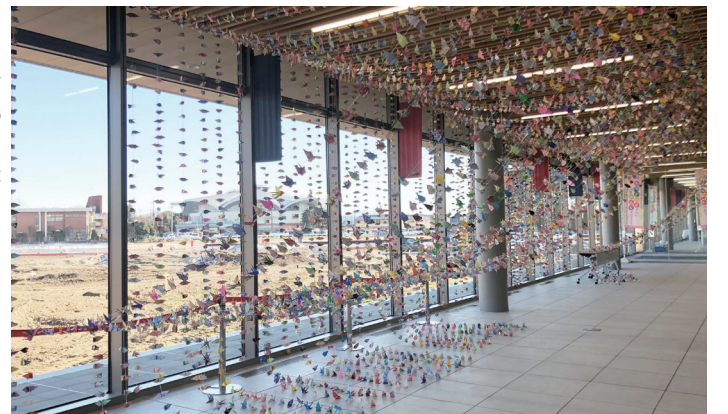
1階は多くの市民が利用する窓口を集約し、イベントや展示等の多目的に使用できる市民ロビーを配置するため、基準階より大きな平面を確保。



■ 階段：市民利用スペースをつなぐ階段は木質化による温かみのある内装

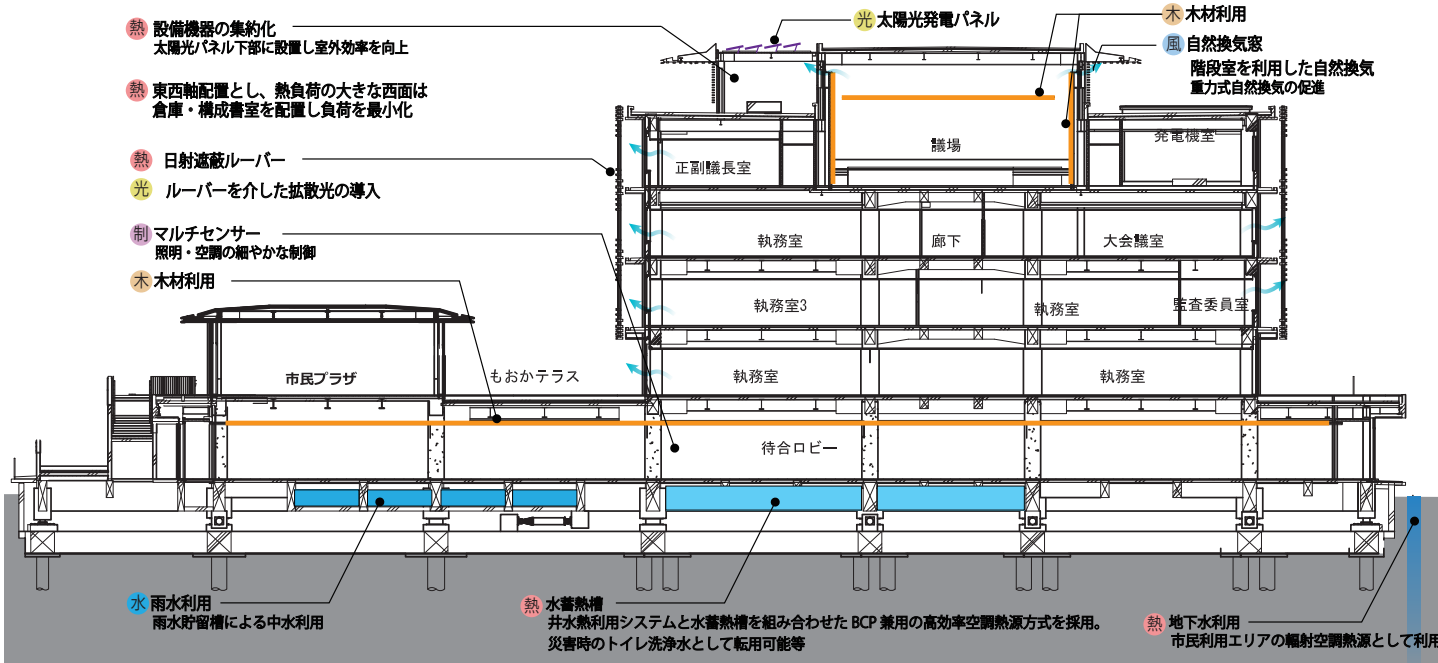


■ 3階：東西軸配置でコンパクトな中廊下形式とした基準階執務室



■ 1階：展示スペースには真岡木綿によるサインや県産木材を活用

地域特性を生かした環境配慮技術を導入し、普段の省エネを転用することで高いBCP性能を確保



水資源が豊富な立地条件を生かし、伏流水を利用した井水熱利用システムと水蓄熱槽を組み合わせた BCP 兼用の高効率空調熱源方式を採用。蓄熱槽と雑用水槽は、災害時に下水がダウンしなければ最大 1000 人分のトイレ洗浄水として転用可能等、普段の省エネ技術が災害時の機能維持に寄与する。

電気・空調共通のセンサーを利用した照明制御（明るさ感）と在 / 不在をキーとした空調制御（VAV）により、省エネルギー制御だけでなく、人に対する快適性も高めたウェルネス庁舎の実現を目指している。

関係者コメント

【建築主】

新しい庁舎は災害時における行政機能の維持や防災拠点だけでなく、利便性、機能性、安全性などの面からも市民のための新庁舎とするため

- ①市民サービスの向上 / ②安全・安心の拠点
- ③すべての人にやさしい庁舎 / ④環境への配慮
- ⑤機能的な庁舎

の5つの建設基本方針を定めて整備を進めました。まちに賑わいを創出し、活力をもたらす真岡市の新たなシンボルとなる庁舎を目指しました。

【設計者】

恵まれた敷地条件によって、多くの市民が訪れる窓口をすべて1階に集約した使いやすい新庁舎が計画できました。お祭りやイベントが盛んな地域性に対しどのような計画案とすべきか、プロポーザルの段階から基本設計、実施設計の中で関係の皆様とともに試行錯誤を繰り返してまいりました。「もおかテラス」や各所に配置した市民利用スペースなど様々な場所が、多くの市民の方たちに利用されることにより、まちに賑わいを創出することに貢献できることを願っております。

【施工者】

施工計画として北側と西側のみの作業導線となり搬入計画に配慮して作業を行いました。また、近接して旧庁舎があったため騒音・振動作業にも配慮しました。高層棟と市民プラザ及びもおかテラスと1棟のなかで繋がっているものの作業スペースが少ないため各棟の工程管理にも苦慮しました。外部のアルミルーバーはモックアップを作成し、断面形状などの検討を行いました。また、施工方法も検討出来たため施工に関しても省力化が図れました。



■多くの来庁者が利用する駐車場側から一目で見渡せる窓口カウンター